

Saturday

2019.S/S

TAMBA

土曜日は丹波へいこう



The charm of

The charm of

ちよつと
足を延ばして
のんびり
気の向くままに…

Saturday TAMBA





The charm of TAMBA



The charm of
TAMBA

土曜日の旅へ

自然と温もりを感じる

兵庫県の中央東部に位置する丹波市。粟鹿山をはじめとする急峻な山々に囲まれ、加古川の源流と由良川の支流の竹田川が流れる独特な地形は、豊かな自然を育み、四季折々の風景を見せてくれます。

まちには、美しい手仕事の伝統工芸、自然が育んだ美味しいもの、歴史の息遣いを感じる町並みと、見どころが盛りだくさん。

自然と人をつなぐ、不思議な魅力をもつ丹波市。ちよびり小旅行気分で出かけてみませんか？



150年ほど前に建てられた古民家を再生した、茅葺き屋根のカフェ。古い梁や大黒柱に守られ、ゆったり流れる時間の中でランチやスイーツを楽しめる。おすすめは、かやぶき〜丹波栗のモンブラン〜(810円)。地元農家の野菜や自社農園で栽培した丹波栗など、丹波の豊かな自然で育まれた旬の食材を心ゆくまで。

中島大祥堂 丹波本店
(なかしまたいしょうどう たんぱほんてん)

丹波市柏原町柏原448 営/販売11時〜17時、カフェ11時〜17時 土日祝:販売10時〜17時半、カフェ11時〜17時半 水曜定休
0795-73-0160
<https://www.ntdshop.jp/>



趣のある空間で味わう
四季折々の地元食材

The charm of
TAMBA

丹波めぐり



神戸で菓子を学び、Uターンした藤本理恵さんと、チャイ作りにはまりUターンした夫の雄大さんの2人が手がけるカフェ。常時9種類が揃うケーキはすべてオリジナルで、丹波市産の卵や牛乳など素材も厳選。



1.三田市の牧場から直送された、濃厚な手作りモッツアレラを使ったマルゲリータ(1,296円)は、薪窯で焼き上げる。2.庭園では、春は桜、秋は紅葉と、里山の四季の移ろいを楽しめる。3.かつては織田藩の家臣とその家族が住んでいたという。

新鮮な食材を使ったレストラン、ロケーションを活かしたカフェなど個性的でセンスを感じるお店が増えています。春の陽気に誘われて、ぶらりとめぐってみませんか？

味わい深い 山川の恵みを愉しんで

築100年余の古民家をリノベーションした鹿肉料理専門店。前菜は、少しずついろいろ食べたい派にぴったり。メインは丹波鹿に加え、猪やアマゴなど山川の食材を用いたヘルシーなジビエ料理。クセや臭みがなく、オトナ女子を夢中に。



無鹿コースのメイン(前菜、メイン、デザート/3,024円)。定番は低温で蒸し焼きにしたやわらかな鹿ロース。和だしの効いた赤ワインソースと好相性。

無鹿リゾート(むしか)

丹波市春日町下三井庄1017-1 営/11時半〜15時(L.O.14時半)、18時〜22時(L.O.21時半)水曜定休 0795-88-5252
<http://hayama.main.jp/musica/>

スローフードで繋がる丹波の恵みをイタリアンで

築130年余の町家をリノベーション。「イタリアンでは、我が町の食材が一番!」というスピリットが根付いています。当店でも丹波の恵みをイタリアンスピリットでお届けできたら」と地域性を重視したコースは丹波市産の野菜やブルーベリー、丹波地鶏など旬の地元食材をふんだんに使用。



イタリア料理Olmo(オルモ)

丹波市柏原町柏原119 営/11時半〜15時(L.O.14時)、18時〜22時(L.O.20時半)火、第1水曜定休(祝日の場合は営業)
0795-73-3500
<https://www.olmo-tamba.com/>

1.ランチ(1,500円〜)、ディナー(4,000円〜)。2.「旬の移り変わりや豊富な食材に恵まれた丹波の魅力を楽しんでもらえたら」とシェフの成田真也さん。



追求したDIYカフェ
“好き”をとことん



1.濃厚でしっとりとしたニューヨークチーズケーキ、ピターな生チョコタルト、ほどよい甘みの苺のホワイトチーズタルト(各540円)。2.夫婦で集めた丹波や島根、九州など全国各地の陶器もズラリ。3.居心地の良いから他府県から訪れるファンも多い。

キャリー焼菓子店

丹波市春日町中山373 営/11時〜18時(L.O.17時半)火、水曜定休、ほか買付等で臨時休業あり
080-1416-8857
<http://kyarie-bake-house.blogspot.com/>

古き良き趣を残した明治時代の小学校

たんば黎明館は、明治18年に氷上郡各町村組合立小学校として建立され、その後、病院や女学校の校舎としても利用されていた歴史的建築物。イオニア調の柱頭や学校の面影を残す建具など、明治初期の洋風建築様式がそのまま残る。2015年に改修され、現在は兵庫県有形文化財に。



内部はレストランやカフェ、多目的ホールとして利用されているほか、ライブラリースペースは誰でも自由に使用可能。歴史を肌で感じられる、貴重な場所だ。



たんば黎明館〈くれないめいかん〉
丹波市柏原町柏原688-3 水曜定休 0795-73-3800
<http://www.reimeikan.org/pc/>



地元の人が愛した 丹波黒さや大納言小豆

地元のおばあちゃんたちが「おいしいから」と、自分たち用にひっそりと作り続けてきた丹波大納言の在来種、通称「黒さや」。大粒で皮が薄く、糖度の高い「丹波黒さや大納言小豆」のおはぎやぜんざいのほか、昼定食(2,000円/要予約)は、自家製小豆味噌の味噌汁や小豆本来の旨さを感じ農産物の旬の地野菜と共に味わえる。



1.丹波黒さや大納言小豆をたっぷりと使った昔ながらのおはぎ。暑休みに添えられた旬の漬物も自家製(700円)。2.光沢を帯びた小豆は、粒同士が重なるほどの俵型。完熟するとサヤが黒くなるのも在来種特有のもの。

あずき工房やなぎた
丹波市春日町東中1425
営/土日祝 10時~16時
昼定食は3日前までの予約で平日も営業
0795-75-1249 FAX 0795-75-0354
<http://azukikoubou.jp/>



店内は、昔から雑貨が好きだったという竹内さんが美しくレイアウト。



一枚の革を折り畳み、洗練された形に仕上げる「所作」の長財布(25,920円)。

日 帰 り で 楽 し む

地元食材をふんだんに 箸で味わうフレンチ

平日ランチのプチコース(1,950円)。メニューは月ごとに変更。素材の良さが引き立つ優しい味わいを楽しんで。

醤油やわさびなど和素材を取り入れ、箸で食べるフレンチを提供するレストラン。地元農家から仕入れた採れたての野菜や、兵庫県名産の但馬牛や豚肉、鶏肉などの新鮮食材を、フレンチにアレンジした料理の数々が魅力。土づくりからこだわった珍しい野菜も多く、そのおいしさに魅了されるという。

ル・クロ丹波邸

たんば黎明館1F 営/ランチ11時半~15時
ディナー17時半~22時 水曜定休(臨時休業あり)
0795-73-0096 <https://tambatei.owst.jp/>



蒸したてを割ると、甘い香りの湯気が立ち上る。肉の旨みを活かすため、他の具材は玉ねぎと春雨のみ。

丹波栗きん豚100%使用 丹波生まれの豚まん

丹波栗を食べて育った和製イペリコ豚と「丹波栗きん豚(たんぱくりきんとん)」は丹波市内でのみ販売されるブランド豚。2種類の挽き方で肉の甘みとジューシーさを引き出した具材と、ほんのり甘い生地がベストマッチ(1個250円)。

手づくり豚まんの店 吉吉〈よしよし〉
丹波市春日町小多利71-2
営/11時~17時 日、月曜定休(イベント出店あり)
090-4649-1094 <http://www.yoshiyoshi.jp/>



日々の暮らしを彩る素敵なモノの数々

Uターンした竹内さんが、2013年にオープンしたセレクトショップ。自分の目で見て気に入った物を集めた空間には、フランスや韓国を訪れて買い付ける洋服をはじめ、食器や雑貨類が揃う。センスある素敵なアイテムで、丁寧な暮らしを生活に取り入れてみよう。

アンティーク&セレクトショップ
三光堂〈さんこうどう〉

丹波市柏原町柏原16 2F
営/10時~18時 火、水曜定休 0795-71-1145
<http://sankoudoutamba.com/>



The charm of

The charm of

大自然と一体になる
スカイアクティビティ

The charm of
TAMBA

空の世界が体験できると人気のパラグライダー。丹波市では、関西で一番の高度差がある、青垣町岩屋山と市島町高谷山の2ポイントでスリリングな体験ができる。また、雨と強風以外は飛べるというフライトにはもってこいの場所。丹波の豊かな自然を眼下に爽快な空の旅を楽しもう。

丹波パラグライダーズスクール
丹波市市島町上田780-2
(電話対応時間8時～18時) 年中無休
090-3030-0864 <https://tambapara.jp/>

TAKパラグライダーズスクール
丹波市青垣町小倉886-1
0795-87-0501(電話対応時間9時～18時) 月曜定休
<http://www.tak.ne.jp/>

ROLLOUTパラグライダーズスクール
丹波市青垣町市原645-1
0795-87-1825(電話対応時間7時～21時) 火曜定休
<http://rollout.jp/>



繊細で美しい表情をみせる 伝統工芸「丹波布」

明治末期まで丹波佐治の地で農家によって愛用されていた「丹波布」。当時は「佐治木綿」と呼ばれ、経糸と緯糸が織りなす美しい縞柄が、現在も多くの人に親しまれている。丹波布伝承館では、糸つむぎ・染色・機織りなどの技術を伝承するほか、館内では機織りや草木染など丹波布のすべてが分かる展示や体験コーナーがある。



館内では実際に丹波布づくりの一部が体験できる糸つむぎ教室(要予約)も実施。

丹波布伝承館
丹波市青垣町西芦田541-1 道の駅あおがき内
営/10時～17時(火曜定休) 0795-80-5100

〈 下記2つの工房でも体験可能 〉

丹波布工房 丹の布
丹波市青垣町中佐治183
営/10時～17時(月・火・水・木曜定休)
090-3271-8407

工芸の店KABURA
丹波市柏原町柏原46
営/10時～15時半(火・水・木曜定休)
0795-71-1683



丹波竜が眠るロマンの宝庫

一億年前の地層が残る山南町上滝で、国内最大級の草食恐竜「丹波竜」が発見された。化石発掘体験をはじめ、「丹波竜」の実物大モニュメントがそびえる「丹波竜の里公園」など太古のロマンが楽しめる。

SNS映える
恐竜ベンチ



2006年に
化石発見!!



化石発掘体験(約1時間程度)
毎週土、日曜、祭日に実施
営/10時～16時 参加費300円

元気村かみくげ
丹波市山南町上滝1913 0795-78-0001 <http://www.kamikuge.com/>

丹波女子が首ったけ♡

魅惑の 丹波三宝 Sweets

丹波が全国に誇る特産品として「丹波三宝」と呼ばれている「丹波栗」「丹波黒大豆」「丹波大納言小豆」。三宝の豊かな風味を活かした「丹波三宝スイーツ」が、いま注目を集めています。スイーツには手厳しい丹波女子をも虜にする実力やいかに!?

毎日でも食べたい
丹波三宝
スイーツ

丹波スイーツ大好き三人娘



丹波市在住。ケーキ、焼き菓子、和菓子...スイーツなら何でも大好き、食べない日は無い!というほどのスイーツ好きの三人。甘さ控えめ、大人の味わいの丹波三宝スイーツが三人の間でブームとのこと。
左から)麻実さん、舞さん、萌さん

丹波まるごと ケーキドーナツ (ミルク・黒豆・栗・小豆) 各220円

油で揚げずにオーブンでじっくりと焼き上げたケーキドーナツ。やわらかな食感に、丹波三宝の旨みを感じる。



丹波黒豆ロールケーキ 320円
ふわりとしたロール生地に大粒の黒豆を使用。生クリームと黒豆の甘さが調和した上品な味わい。

夢の里 やながわ

1892年創業。モンブランやバウムクーヘン、最中など丹波の特産品を使った和洋菓子を手掛ける。丹波市春日町野上野920 営/10時~18時 水曜定休 0795-74-0123 <https://tamba-yanagawa.co.jp/>

コンフェクトタナカ

創業から30年以上続く地元の人気店。素材本来の風味を活かした甘さ控えめなスイーツが揃う。丹波市市島町市島399-3 営/9時~19時 水曜定休 0795-85-2583

大きい栗が入って
食べごたえ抜群



丹波渋皮栗かすてらロール 丹秋 2,160円(1斤) 1,080円(半斤)

丹波栗の大粒渋皮煮をちりばめ、なめらかな舌触りの丹波栗のペーストと、しっとり焼き上げたカステラ生地で巻き上げた一品。



丹波黒豆バウム(ケヤキ) 2,376円(大サイズ) 1,080円(小サイズ)

丹波黒豆きなこ、丹波黒豆かのを使用した丹波米バウムクーヘン。やわらかな口どけに黒豆の甘みが広がる。

御菓子司 藤屋

1950年創業。地元の素材を使った天々字知果最中や季節の大福など四季折々の和菓子が並ぶ。丹波市山南町井原411 営/8時~19時 火曜定休 0795-77-0146 <http://tanba.or.jp/member/fujiya/>

まさゆめさかゆめ

丹波市産の素材を使用したバウムクーヘンを届ける。独特なシルエットは、樹齢千年「木の根橋の大榎」がモチーフ。丹波市柏原町柏原4-2 営/10時~18時 水曜定休 0795-71-1265 <http://masayumesakayume.com/>

丹波大納言小豆餡食パン648円(1斤)

丹波の老舗和菓子店明正堂が炊き上げた、特注の丹波大納言小豆餡をたっぷり使用。餡のkokoroが食パンの旨みをさらに引き上げる。



丹波大納言小豆、黒豆、栗 マドレーヌ 241円

大納言小豆、黒豆、栗と丹波三宝をふんだんに使ったマドレーヌ。素朴な味わいに丹波三宝の風味が広がる。

パンの蔵 穂音

地元の素材にこだわったパンが30種以上並ぶ。食パンと同じ、丹波大納言小豆餡を使ったあんぱんも人気。丹波市柏原町柏原46センタービル1階 営/10時~18時半 日、第2、4月曜定休 0795-78-9460 <http://www.honon-pan.com/>

スイーツチェリッシュ

素材一つひとつにこだわりをみせるスイーツ店。ロールケーキやガトーショコラ、プリンなど様々なスイーツが並ぶ。丹波市柏原町南多田472-1 営/10時~19時 火、水曜定休 0795-73-0355 <https://www.sweetscherish.com/>

丹波 おもしろい 知るほどに

人と地域をつなぐ
丹波人(たんばびと)が発信



代々農業を営んでいる人、新天地を求めて1ターンした人...きっかけは違っても、地元や暮らしを盛り上げようと活動する丹波人(たんばびと)。「丹波市っておもしろい」そう思わせてくれる、魅力をお届けします。



歴史ある丹波大納言小豆の ブランドを継承する



1.上に積み重ねられるほど、美しい旗型をしているのが、最上級の丹波大納言小豆の証。旨味や甘味成分など、科学的にも品質の良さが証明されている。2.加工品の小豆茶はノンカフェインの飲み物としても注目されている。

代々丹波市で農業を営み、丹波大納言小豆や丹波山の芋などを生産する中出さん。「丹波は多くの作物にブランド力がありますが、それは土地に大きな魅力があるからなんです。丹波市は、瀬戸内海側と日本海側の2つの気候が融合する奇跡的な地形になっています。秋から冬に発生する『丹波霧』が象徴する昼夜の寒暖差や、肥沃な土地のおかげで昔から穀物類の栽培に適した環境でした。その中でも、丹波大納言

小豆は特別だという。粒の大きさと味、香りの評価も高く、ポリフェノールの量も他の小豆より多く含まれている。「冠の『大納言』という言葉は、煮ても小豆の腹が割れにくいいため、切腹が言い渡されないほどの高官である『大納言』という位にたとえて名付けられたと言われていました。丹波市に住む人たちが、約400年絶やすことなく守り作り続け、江戸時代の文献にも残る、他では真似できないブランドなんです」。



丹波大納言小豆生産振興会 会長
なか やす ひろ
中出 靖大さん

丹波大納言小豆のほか、特別栽培米夢たんばや丹波山の芋などを生産。振興会では市内の農家と連携し、より品質の高い小豆栽培に取り組む。



生産と加工による 地域循環で 新しい丹波の魅力を届ける

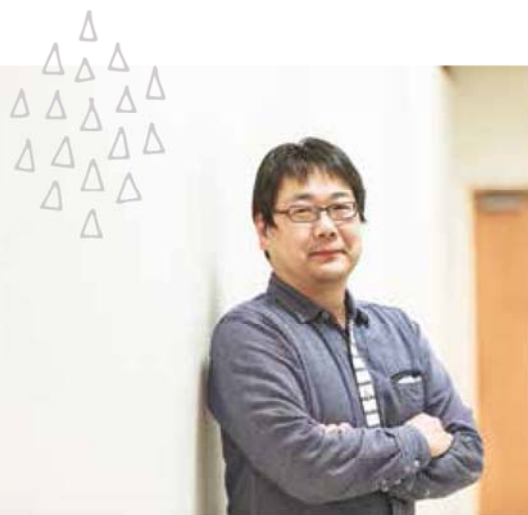
丹波大納言小豆、丹波栗、丹波黒豆を三つの宝「丹波三宝」と名付け、PRを行う畑さん。「代表的なのは『丹波三宝スイーツフェスティバル』。地元の和菓子店や洋菓子店などに丹波三宝を使った商品を作ってもらい、2018年には4200人が来場。その魅力を多くの方に知ってもらえました。この地元の食材で特産品を作る動きこそ、新しい丹波の価値を生むという。これまで素材の知名度はあるものの、原材料を有名和菓子店やホテルに出荷するだけで、市内で味わえる場所がなかったんです。自

分たちが地域を感じられるモノづくりを率先すること、基幹産業である農家の人々には、地元でこんなに美味しいものが作れると知ってもらい、外からは丹波市でしか食べられないと訪れてもらえるような流れができれば理想ですね。丹波独特の気候風土で育まれた『丹波三宝』をより多くの方に知ってもらえたら嬉しいですね」。



丹波三宝推進協議会 会長
はた おお
畑 道雄さん

丹波市や観光協会と連携し、地域活性化及びブランド化を推進するプロジェクトリーダー。イベントや品種保全などの多彩な事業で、生産者と加工者との橋渡し役を担う。



1.生産が衰退し、原種がわずかに残っていた「丹波白雪大納言」。畑さんが復活させようと自身でも生産し、現在加工品も登場している。2.丹波大納言小豆、丹波栗、丹波黒豆を指す「丹波三宝」。粒が大きく、味もよいと評判で老舗和菓子店でも使用されるなど全国的に有名。



丹波の人の助けがあってこそ 幸せを感じる場所に

丹波悠遊の森 副施設長
はな だ ぎょう へい
花田 匡平さん

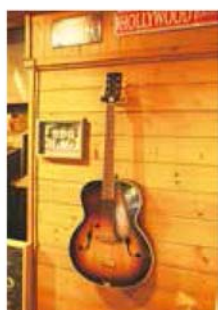
大阪・堺で約9年のサラリーマン生活の後、6年前に1ターン。現在はコテージやキャンプサイトが人気のスポット「悠遊の森」で、施設管理やイベント運営を手がける。

大阪から移住し、地域に溶け込みながら賑わいを生む様々な仕掛けづくりに励む花田さん。実は、前向きな理由で丹波市への1ターンを選んだのではないという。「体調を崩して仕事を休職していたんですが、復調してきた際に次は何をしようかと悩んでいたら、たまたま丹波市の知り合いの方に移住という手段もあると、提案してもらいました」。

自身の変化を求めると同時に、丹波市ならいつでも帰れる距離だと感じたことから、移住を決意。「田舎は不便かなと思っていましたが、住んでみると、そうでもありません。必要なものは揃っていますし、大阪にもすぐに出来るので、むしろ都会にいる理由がなくなりました」。また、移住してからは多くの人との出会いが助けになったという。「最初はスーパーで働いていたんですが、『悠遊の森』で友人らと何度かイベン



1.「悠遊の森」で行われる森ハンモックカフェや音楽フェスなど、多彩なイベントも地域のひとと協力して企画。現在は平日でも大勢の人が集まる人気スポットに。 2.より本格的なBBQを楽しんでもらおうと、インストラクターの資格も取得。丹波BBQ協会も立ち上げた。



3.地域で協力して生まれた「丹波ブルドポークバーガー」は、2018年のとっとりバーガーフェスタでベストローカリズムバーガー賞を受賞。 4.黒豆きな粉を使ったパンズや丹波栗きん粉、特製の丹波大納言小豆ソースなど、丹波の地元食材をふんだんに使用。





加古川沿いの
桜並木

約1,000本のソメイヨシノが5kmにも渡って加古川沿いに並ぶ。ここ以外にも丹波市内の6町ではソメイヨシノのほか、山桜や糸桜、八重桜をそれぞれ楽しむことができる。

見頃：4月上旬～中旬
丹波市氷上町地域



かたくりの花畑

丹波市氷上町はかたくりの南限と言われており、毎年多くの観光客やカメラマンが訪れる。4月上旬の日曜日にはかたくり祭りも開催され、多くの人々で賑わう。

見頃：4月上旬
清住かたくりの里(丹波市氷上町清住かたくり群生地)



びやくこうじ
白毫寺の九尺藤

長さ120mの藤棚から150cmにも伸びた無数の花房が、シャワーのように垂れ下がる姿は圧巻。九尺ふじまつり開催中は夜間ライトアップされ、幻想的な顔を見せる。

見頃：4月中旬～5月中旬
丹波市市島町白毫寺709



れんげ畑とこいのぼり

舞鶴若狭自動車道春日IC近くの野上野(のこの)地区で、自然に囲まれた広大な畑一面にれんげが咲き誇る。毎年5月3日には春日れんげまつりが開催され、こいのぼりが空を泳ぐ。

見頃：4月下旬～5月上旬
丹波おばあちゃんの里(丹波市春日町七日市710)付近

春夏 TAMBA

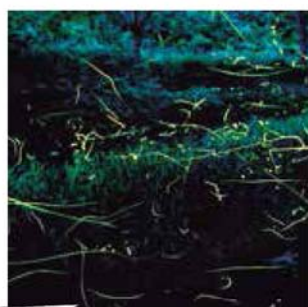
花や緑が芽吹く春、爽やかな風が吹き抜ける夏。
豊かな自然が広がる、春と夏の見どころを紹介します。



あまご掴み

“ええ水”が流れる青垣町ではあまご掴み体験ができる。掴んだあまごは1尾から塩焼きや唐揚げにしてくれ、その場で味わうことも。もちろん生での持ち帰りも可能。

体験期間：5月の連休～9月中旬
あまご村(丹波市青垣町大名草898)
TEL:0795-87-5556
☑HP <http://amago.aogaki.jp>



今出せせらぎ園での
ホテル観察会

今出せせらぎ園では川沿いにゲンジボタル、山沿いにヒメボタルを同時に観察することができる。2種類のホテルが飛び交う風景を堪能できるのは、全国的にも珍しい。

見頃：6月下旬～7月上旬
今出せせらぎ園(丹波市青垣町遠阪1625)周辺



ブルーベリー狩り

2006年に丹波ブルーベリー研究会が発足し、各農園でブルーベリー狩りが楽しめる。
摘み取り期間：6月中旬～9月中旬
(※摘み取り期間は生育状況や農園によって異なる)
〔ノビス農園〕
丹波市氷上町新郷762 TEL:0795-82-0959
〔青丹ブルーベリー農苑〕
丹波市青垣町市原534 TEL:0795-87-1684
〔奥丹波ブルーベリー農場〕
丹波市市島町南1102-5 TEL:0795-85-2535
〔大内農園〕
丹波市青垣町小倉777 TEL:080-1415-8500
〔八尾巧農園〕
丹波市氷上町長野234 TEL:0795-82-3064
〔野花果樹園〕
丹波市春日町野上野499 TEL:0795-74-0908



大路月末朝市

元養鶏場を活用し、2016年からスタートした地域密着の朝市。和やかな雰囲気の中で、人気店の朝ご飯や買い物を楽しめる。月毎にメニューや出展内容が異なるのも面白い。

開催日：毎月最終土曜日の9時～12時
(11月～3月は休み)
丹波市春日町中山ヤマザキショップ裏鶏舎跡地(※P20台ほどあり)



Event Schedule

4 April



ようこそ御茶の国丹波へ

4月28日(日) 興禅寺・黒井城本丸跡

戦国時代に“丹波の赤鬼”と呼ばれた赤井直正の居城・黒井城。その城跡で綺麗な山並みを背景にお茶を嗜んだり、能や雅楽が鑑賞できる。戦国時代のようなムードを楽しんで。

4 April



ウッドワーカーズクラフト

4月28日(日) 兵庫県立丹波年輪の里

新緑の芝生広場で、家具やおもちゃ、置物などの木工作品を作家約40人がテントブースで紹介・販売する。木工体験や飲食コーナーもあり、木の温もりに触れながらピクニック気分を味わえる。

4 April



高源寺 新緑まつり

4月28日(日) 高源寺境内とその周辺

紅葉の名所であり、新緑でも訪れる人々を魅了してくれる高源寺。春色に染まる境内やその周辺で、あぜ道散策や梅花鑑賞、ヨモギ・ユキノシタなどの山菜天ぷらを楽しむことができる。

7 July



あじさい祭り

7月14日(日) ファーム市ノ貝農場

2014年の丹波豪雨災害の復興シンボルとして、被災した農地で育てられているあじさい。そのあじさいのプリザーブドフラワーでブーケ作りをしたり、交流を楽しむイベント。

7 July



はす祭り

7月7日(日) 江古花園

自然豊かな里山の青垣町東芦田にある江古花園(えごはなえん)。ピンクの大輪の花が湿田に咲き誇る様は圧巻。はすを使った菜膳のお弁当も販売。

6 June



プロ野球ウエスタンリーグ

6月2日(日) 春日スタジアム

プロ野球の「ウエスタンリーグ」阪神タイガースVS福岡ソフトバンクホークスの公式戦が丹波市で開催！その他にも丹波三宝が味わえたり、周辺ではホテル観賞も同時開催される。

8 Aug



「ちーたんの館」ナイトミュージアム

8月10日(土)～18日(日) 丹波電化石工房ちーたんの館

暗闇でライトアップされた恐竜化石がちーたんの館に出現！昼間とは一味違って暗闇に浮かび上がる骨格模型はさらに迫力を増し、夜中の不思議なミュージアムが体感できる。

8 Aug



案山子(かし)まつり

8月中旬・下旬 市島町鴨庄小学校付近

昔懐かしいかしや人気のキャラクターかしなど、地元の人々が趣向を凝らした創作かし約50体が農道にずらりと並ぶ。

8 Aug



スプラッシュ丹波

8月予定 兵庫県立丹波年輪の里(予定)

広い会場にバトルブースや水まき広場、泡モコモマシーンなどが設置される丹波市最大の水のイベント。特設ステージではダンサーやバンドがイベントを盛り上げ、屋台村には美味しいグルメが並ぶ。

Monthly

丹波ハビネスマーケット

毎月第2土曜日 柏原八幡神社周辺



城下町・柏原で、こだわり食材を使った飲食店や手しごと雑貨のお店が大集合！風情のある街並みを満喫しながら、お店を出す人と訪れる人が一緒に幸せになれるマーケット。

※日程・内容は変更の可能性あり ※イベントの詳細は丹波市観光協会のホームページへ





丹波市へのアクセス

電 車：JR大阪駅から福知山線柏原駅まで 約80分 JR三ノ宮駅から福知山線柏原駅まで 約100分

車：中国自動車道 中国吹田I.Cから舞鶴若狭自動車道 春日I.Cまで約60分
阪神高速新神戸トンネルから舞鶴若狭自動車道 春日I.Cまで約60分

発 行：丹波市 丹波市氷上町成松字甲賀1番地

問合せ：0795-82-1001 (平日8時半～17時15分) <https://saturdaytamba.com/>

編集・制作：株式会社シティライフNEW

